

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム 笑生苑より愛		
所在地	防府市大字仁井令765-6		
電話番号	0835-21-8555	事業所番号	3590600023
法人名	社会福祉法人 ひとつの会		

訪問調査日	平成 20 年 9 月 24 日	評価確定日	平成 20 年 11 月 14 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	13 人	常勤 5 人 非常勤 8 人 (常勤換算 7.25 人)	

(2) 建物概要

建物構造	木造 在来工法) 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分	

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 24,000 円	敷金	無	円
保証金	有 184,200 円	償却の有無	有	
食費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
その他の費用	月額	27,900 円		
	内訳	光熱水費 13,500 日用品 9,000 衛生管理費 5,400		

(4) 利用者の概要 (9月1日現在)

利用者数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
	要介護 1	1	要介護 4	0	
	要介護 2	6	要介護 5	0	
	要介護 3	2	要支援 2	0	
年齢	平均 85.3 歳	最低	81 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 ひらた内科呼吸器科医院 相川医院 防府消化器センター 歯科 きしもと歯科医院
-------------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

職員はそれぞれ、月間業務の反省記録を提出し、全体会議でケアのあり方や要望などを検討して日々の取り組みに活かしています。
職員数は非常勤を含めて13名で、行事や外出、職員の緊急時には充分に対応できています。また系列のホームとは、合同行事で顔なじみになっており、職員の応援を求めることも可能です。

(特徴的な取組等)

運営推進会議をメンバーの一員である近所の喫茶店で開催しており、月1回利用者2人づつコーヒーを飲みを訪れるなど、地域とのつながりを含めた取組がされています。
毎日の散歩は利用者のペースに対応できるよう2コース作り、また、温泉や動物園、映画、コンサート、買い物や季節毎の花見など多くの外出の機会を作っています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

評価結果は全体会議で検討して、改善に取り組み、救急救命の研修や市との連携、ヒヤリはっと報告書の充実に取り組みの工夫が見られます。

(今回の自己評価の取組状況)

職員全員にケアに対する意見や気付きを聞き、管理者とユニットリーダーで話し合せて記入しています。評価の項目を通して、支援方法や取り組み方の反省と課題が見えてきて、グループホームの質の向上に役立っています。

(運営推進会議の取組状況)

3ヶ月ごとで、メンバーは民生委員、自治会長、地区住民、地域包括支援センター職員(2人)、家族で地域のメンバーである方の喫茶店で開催し、行事や事故報告、外部評価の結果報告、地域からの要望など意見交換をしています。

(家族との連携状況)

面会時や電話で暮らしぶりや健康状態について伝えていきます。毎月金銭管理の明細を送付すると共に系列のホーム(3ユニット)との合同便りを年3回送っています。合同の家族交流会も計画され、今後独自のホーム便りの検討も行っています。

(地域との連携状況)

自治会に加入し、地域の文化祭や盆踊り、運動会に参加したり、ごみ収集や下水掃除などの婦人会活動には職員が出ています。公民館で認知症に関する講和をし、また、利用者が2人づつ交代で喫茶店に出かけたり、散歩や買い物での挨拶や声かけなど地域での交流を深めています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>開設時の独自の理念「共生、協同、共助」の実践に努力しているが、地域密着型サービスを踏まえての具体的な検討には至っていない。</p>	<p>・地域密着型サービスとしての具体的検討</p>
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>ミーティング等で理念を共有し、日々実践に向けて取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会に加入し、地域の文化祭や盆踊り、運動会に参加したり、散歩や買い物で挨拶や会話をするなど交流している。婦人会のごみ収集や下水掃除には職員が出て、地元の人と交流することでホームの啓発に役立っている。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>全体会議で評価結果を検討し、できることから改善に取り組んでいる。自己評価は職員の意見を聞き、管理者とリーダーでまとめている。ケアの方法の反省や課題が見え、質の向上に役立っている。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>3ヶ月ごとに開催し、メンバーは自治会長、民生委員、地域住民、地域包括支援センター職員(2人)、家族、職員(3人)で外部評価の報告や行事、事故報告、地域からの要望など意見交換をしている。</p>	<p>・メンバーの拡大の検討</p>
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>介護保険課とは制度手続き等の連携、地域包括支援センターとは相談や認知症の啓発方法等で連携を取っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時や電話で暮らしぶりや健康状態、職員の異動についても報告している。金銭管理の明細書と共に、系列のホームとの合同便りを年3回送付している。法人のグループホームで合同家族会を予定している。また、独自のホーム便りを検討中である。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	面会時や電話の際、家族の意見や要望を聞くように努めており、意見は運営に反映させている。相談、苦情の窓口担当者、第三者委員、外部機関は明示しているが、処理手続きは明確に定められていない。	・相談、苦情処理手続きの明確化
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員は13名で内5人はホームの近くに在住し、緊急対応や要望には柔軟に対応している。遠出や行事で人手不足時は系列のホーム職員の応援を依頼している。勤務については、その状況により時間帯や夜勤を変更して調整に努めている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	系列のホームでの異動はあるが、日頃から合同行事で、顔なじみになっており、引継ぎは上手く出来ている。離職の場合は、日勤1ヶ月、夜勤3ヶ月の重複勤務をし、ダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	段階に応じた研修計画を立て、勤務の一貫として受講している。法人内の研修や新人の場合はリーダーをつけて働きながらのトレーニングも実施している。ミーティング時に復命をし全員で共有している。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会の研修会に年3回、ブロック会議年4回、懇親会年2回に交代で参加する他、市内のグループホームの見学や情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期 待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>ホームから面会に出かけたり、家族と共に見学できる機会を作っている。また5日間の体験入居も行って、雰囲気に馴染めるように工夫している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>洗濯物をたたむ時ほころびを見つけて繕うことや、食器の移動等教えられることも多く、また職員に対する心使いが見られ、支え支えられる関係作りが築かれている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>現状では意思表示のできる人が多く、直接聞いたり日常の会話の中から把握し、カンファレンスで検討し共有している。困難な場合は家族からの情報や生活歴で把握している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>本人や家族の意見や要望を聞き、月1回のカンファレンスで話し合っ、アイデアを反映した介護計画を作成している。カンファレンスには、年1回家族2人が参加している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>職員の気付きノートや家族の要望など月1回のカンファレンスで全員の検討をし、変化のある場合見直しを行って現状に即した介護計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>受診や理美容院の送迎、訪問看護、往診その他個人の特別外出等の支援をして、本人や家族の要望に柔軟に対応している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に本人、家族と充分話し合い、かかりつけ医から協力医に変更の場合は管理者が同行し、紹介状や情報を伝え適切な医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化に対する対応指針を作成し、契約時にホームで可能なケアについて説明して同意書にサインを貰っている。状態に変化があれば、話し合いをしながら対応している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーを損ねるような言葉や態度については、ミーティング等で話し合い、職員は充分認識している。記録類は見えない場所に保管し、情報提供の同意を得ている。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	午前中のスケジュールはある程度決まっているが、散歩や読書、レクリエーションなど、それぞれのペースを大切にしながら、職員は見守っている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は配食であり、盛り付けや配膳、後片付けは力量に応じて一緒に行っている。月2回の昼食作りでは、利用者の好みを聞き献立から調理まで一連の作業を皆で楽しんでいる。ゆったりとした雰囲気の中で、全員が同じ食事を食べている。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴時間は15時から18時で週3日であるが、希望すれば毎日でも可能である。健康状態や希望によりシャワー浴や清拭、足浴も行っている。年に3~4回近くの温泉に行き職員と一緒に入浴を楽しんでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	それぞれの生活歴や力量に添い、押し花や読書、カラオケや映画、園芸や洗濯干し、繕い物など活躍できる場面作りや楽しみごとの支援をしている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	毎日の散歩や買い物、コンサート、映画、図書館、動物園、四季の花見、喫茶店などその日の希望に添って、戸外に出かける機会を作っている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	法人の拘束委員会での研修を受講し、職員は拘束に関して正しく認識しており、特に言葉による拘束に注意を払っている。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員は鍵を掛けることの弊害を理解しているが、利用者の状態や建物の立地、環境等から危険が大きいため、玄関に施錠しブザーをつけている(家族了解の上)。見守りをし外出察知には全員が配慮している。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを作成して、一人ひとりの状態を把握し、ヒヤリはっと・事故報告書を検討して事故防止に取り組んでいる。法人で行う事故防止委員会の研修を受講している。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルがあり、法人の行う訓練に年1回参加しているが、応急手当は全職員が対応できるまでには至っていない。家族、関係機関の連絡網は掲示されてある。	・ホームでの定期的訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年1回消防署の指導による訓練とホーム独自の避難訓練を実施しており、夜間想定訓練、消火器使用訓練も行っている。法人で電池、ヘルメット、ペットボトル、非常食など備蓄されている。地域の協力については、現在働きかけて話し合い中である。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の目的や副作用、用量は一覧表で把握しており、服薬は手渡しして確認している。変化があった場合は医師や薬剤師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後一人ひとりに合ったケアを実施している。歯ブラシの洗浄は毎日、義歯は週1回消毒し保管している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量は毎回記録し、水分は摂取量で大まかに把握している。栄養管理委員会で好みや味付けなどのアンケートをとり、食事に活かしている。バランス、カロリーについては、法人からの配食のため、栄養士により把握されている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルがあり、感染症対策委員会で予防や対応が決められ実行している。うがい、手洗いの励行、週1回の手摺りの消毒、ペーパータオルの使用などを徹底している。流行時、訪問看護師による具体的な指導も受けている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	民家を改造したホームで、居室の間仕切りは襖や障子で開放的であり家族らしさが伺える。南向きの広い縁側から庭の緑や通りの様子も見え、ゲームをしたり歌ったり、和やかに過ごしている。住宅地の中であり、生活感、季節感も充分感じられ居心地よく過ごせる空間である。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	テレビや筆筒、写真、時計、鏡、人形などそれぞれが使い慣れたものを持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム 笑生苑 より愛
所在地	防府市大字仁井令字上地石原765-6
電話番号	0835-21-8555
開設年月日	平成 18 年 9 月 1 日

【サービスの特徴】

* ハード面は日本家屋で立地が住宅街にあり、施設感がない。家屋内は畳とフローリングの部屋が混合、部屋の入り口は少々段差があります。2階の居室には、エレベーターと階段の両方で昇降できます。そんな雰囲気が入居者には心の安らぎを感じているようです。地域の方の理解と協力はとても感謝しています。月に2回地域のボランティアさんが手芸や音楽活動に来苑してくれます。

* 常勤職員以外のパート職員さんは同じ自治会の方が勤めています。とても協力的で行事などで人手が必要な時が年に1~2回ありますが、ボランティアで応援してくれ、ソフト面においても家族的な雰囲気です。いつも活動的、それぞれの残存能力に合わせ活動をしています。また、学習療法も自主的に取り組み、認知低下予防になっているように感じます。

* 家族の面会と家族との外出はもう少し欲しいと感じます。苑の家族参加の行事についても、全家族参加が毎年無いのは残念です。

* 家族へ健康面について報告などするが、関心度が薄く、通院等の協力を意見と言う人もいます。(家族としての支援の干渉が無い)

【実施ユニットの概要】 (8 月 1 日現在)

ユニットの名称	より愛			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名	
	要介護 1	1	要介護 4	
	要介護 2	6	要介護 5	
	要介護 3	2	要支援 2	
年齢構成	平均 85,3 歳	最低 81 歳	最高 91 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	管理者、ユニットリーダー話し合い、現状で把握していることを評価した。
評価確定日	平成 20 年 8 月 26 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		ホームを交流の場とし、地域の方と入居者の交流を図りたい
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	行事計画を立てる時、目的は理念を考え、職員は計画を行っている。	
3	運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		掲示しているが、職員の自覚に任せ、共通理解してはいない
4	運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	サービスの質の向上=生活の質の向上を職員全員考え支援している	
5	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		プライバシーの保持を守り、苑の情報を広報誌などで紹介していきたい。
2. 地域との支えあい			
6	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。		出会った時の挨拶は職員、入居者、行っているがホーム内に案内することが出来ない
7 (3)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	* 自治会主催の盆踊り大会の参加、地域の祭りや小中学校の運動会や文化祭に見学に行っています。 * 職員は婦人会の一斉清掃参加・不燃ごみの収集当番・下水掃除などで地域交流を図っています	
8	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		今年度、地域の公民館を会場に”認知症高齢者の理解”と題して講話を行います

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価が出た後には全体会議を通して、次の目標を考え合います。反省と課題をもてる機会としています	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	地域の方との意見交換の場となって、交流をもつことで理解しあえるのではないかと感じている	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		推進会議の議事録を市役所窓口へ提出の際に談話をする
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	* 1名権利擁護利用者あり、家族も権利擁護に必要な書類について、月に1度は連絡をしてくる * 必要性の有る方へ、アドバイスは行う	
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	苑内での防止は行っているが、職場を離れて遭遇した時の未然の対処は難しい	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	必ず行い、納得の上で成立させている	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族からの意見を聞く機会は常日頃から来援時にコミュニケーションを図り行っている	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	来苑の際、職員が口頭で行ったり、電話で報告します	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	玄関に掲示しているが要求があれば対応できるようにしています		
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	契約書に記載しているが直接、苦情に対応もしている		自宅に呼びつけられての苦情は・・・？ 苦情の内容に疑問を感じても「申し訳ございません」としか言いようが無い どこまでが苦情で、どこまで聞き入れればよいのか勉強したい
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回の全体会議とカンファレンスの際に職員同士が計画を立て、実施計画書で報告を行い、管理者はアドバイスと課題と反省にコメントを行っている。また、連絡ノートで意見交換を行っている		
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の心身の状況が変化し、介護の必要性が高くなった時はパート職員を増員するなど、状況に合わせた職員配置を行っている		
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。			思いのある、介護の好きな方は利用者にも信頼され、離職しないが、思いのない方は離職の方向へと考える人が多いので、入居者は肌で感じ、信頼関係が成立していない。関係性の配慮はしている
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	今年度から取り組みを強化しました。研修はそれぞれの職員に必要な内容を選択し参加を行っている		
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	老人・障害・子ども(保育所)の施設に勤務経験のある職員が対応、入居者は安心感を持っている様子である。男性職員は入居者には孫の世代で精神的な安らぎを感じている様子		
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム協議会の研修に参加、交流を図っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		常勤職員が少ない為、勤務シフトにゆとりが無いと感じている。運営者も職員募集を行っているが応募が無い。今後も継続して募集をしていく
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	年間2回の個人面談を行う際にDO-CAPシートと自己評価表を提出している。個人の意見や上司からのアドバイスなどが行われる	
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	行っている	職員の仕事の楽しさと質の向上に繋がる環境を運営者は作って欲しい
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	本人・家族に事前に面接を行い、意見を参考に受入の準備は行っている	
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	行っている	
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		この1年間家族とのカンファレンスが出来ていなかった、全家族とのカンファレンスの計画を年度末まで計画する。家族の協力を求めたい
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	環境変化の葛藤時には特に観察しながらの対応から入っている。家族の協力も含めて早く環境に慣れてもらえるようにケアを行う努力をしている	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		支えあう関係については、職員の今後の課題である

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。			今までも職員と家族と本人の共同帯と考え、生活の共有化を図っているが家族方の理解には斑があり関係性については一部これからの方も居る
34 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族に、2週に1度のリネン(掛け布団カバー)の交換を家族で行ってもらう約束をお願いし、その時を家族との交流の場に行っているが来ない家族も居る(来ない家族は常時決まっている)が殆どの家族(7~8割)が協力してくれている		入所から日にちが経過すればする程関わりが薄くなっているため、「一緒に外出する機会を作って欲しい」と家族に話すが、実行までがなかなかである。工夫したい
35 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。			家族の方の協力によって、出来る方と出来ない方である。外出支援などで工夫していきたい
36 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個々人の持っている能力を他者に活用できるように支援の協力をしている。縫い物が得意な方にズボンの裾が落ちている人の補修をしてもらっている。洗濯物を干してもらう人、取り入れる人、等のモチベーションを作っている		食事中、自力摂取が少々困難な方の側に、自主的に手を差し伸べてくれる人を席を決めている
37 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。			関わりが持てていなかった。今後の課題にしたい。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1.一人ひとりの把握			
38 (15) 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員全員でカンファレンスで話し合い、共通理解しながらケアに取り組みます		外出を希望する方が殆どなので、天候を見ながら近くの運動公園へ行き、歩行訓練を行ったり、気分転換を図ることを日課にしている。
39 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	在宅で独居暮らし、マイペースの方、デイサービス利用などそれぞれですが家庭的雰囲気の中で生活してもらっている		
40 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	1日1時間、フリータイムを設け過ごす。居室で殆どの方が昼寝をしています。本を読んでいる方、テレビを見ている方、まちまちですが思い思いに行動出来ている		最近、外出支援(外食・買物)が少ないので、希望を聞いて行きたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	センター方式の研修は参加し、部署内研修も行ったが取り入れていない	本人と職員(職員と家族)で面談方式でケアプランを考えたい。
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	1年間の短期目標を設定し行うが身体的変化が重くなった時は1年の途中でも生活形態に合わせ対応しています	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		情報の記録は行っているが、実践に活かしたい。学習療法の成果を個人の生活のどこに起用すれば良いのかを観て行く
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		柔軟性にかけている。これからの課題であるが、現状は範囲が見つからない
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の方がボランティアで音楽活動・手芸で月に2回活動してくれている。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	同じ以内のグループホームの職員の研修で見学に来ました	20年度地区の公民館にて「認知症の方への理解」の講話を初めて行います
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		自宅復帰された入居者には支援しましたがげん入居者への支援は行っていません

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。			経験はありません。今後必要に応じて行っていきたい
49 (19) かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	支援しています		
50 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。			家族に話して、家族が対応して受診していますが職員と医師との関係は築かれていません。主治医との関係は徐々に築いています
51 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携の契約を行っている訪問看護ステーションの看護師とは常に情報提供を行い、また、訪問によって入居者一人ひとりの健康状態を把握している		
52 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	行っている		
53 (20) 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	家族と方針は話し合っ、主治医と相談し対処している		ハード面において、重度の受入れが難しい為入居時に説明していますが、同法人の施設に移動を考えていただくか他施設を紹介しています
54 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	入居中に重度になった時は「家族・医師と相談の上他施設を紹介します」と契約時に話して、納得の上での入居契約を行っています		重度の受入れが難しい為入居時に説明しています。他施設を紹介しています
55 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている			対応が必要になった時は努力します

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	行っていません	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	園芸活動をしたい方、手芸、読書、外出、買物、ニーズに応えた生活支援を実施	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	月に2回Cookinngを行います、それぞれの能力に合わせた作業を行ってまいります。普段の家事も同じです。洗濯物の干す・畳む・食器洗い、米研ぎ、等も能力に合わせ役割分担をして行ってまいります	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	毎日、午後からの過ごし方はそれぞれ思うままに決めていきます。職員は一人ひとりを見守り、また、支援します	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	2ヶ月に1度外出支援で市内の理容院に行く人、施設に来てもらう人もいます。化粧VOLさんが月に1度マッサージに来苑(化粧品は苑と個人が負担)希望者のみ	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>		月に2回の昼食作りですが好きな物を皆さん楽しく作っています。これから回数を増やして行きたい
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	おやつは、好みのものを個人個人が買います。一人夕食にビールを飲む方が居ます	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	オムツ使用者の方を入所後使用しないで、トイレ誘導で行っている。今の所オムツは使用しなくなった	オムツ使用量が多い方の減らす工夫をしたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		季節の変わり目は特に外気、室温、の調整に気をつけています
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		季節によって行動しにくい時の楽しみ方を考えたい
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買物支援の時は職員の見守りで各自で支払をいってもらう	自分で小遣い帳の記入が出来る方には職員の見守りで行うように支援する
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	殆どの方(1名の方意外)は独歩で散歩が出来、一日に1回は近くに散歩をします但し真夏の暑い日や雨季の雨降りの日は屋外に出にくいので散歩はしません	近郊の運動公園を利用して、歩行訓練を行う時期もあります
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	音楽のコンサートや映画館、図書館、大型店舗へのウインドーショッピング、徳山動物園、観光地(毛利邸・大平山)・温泉など	近郊の観光地だけでなく1時間程度の車の移動が可能な方に宇部の常盤公園や下関の海峡館なども行ってみたい
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	帰宅願望の出た時、家族の声を聞くことで精神的に穏やかになる方は電話、また、文章能力のある方は手紙を書いた後に投函の外出援助に近くの郵便局に行っている	郵送をしなくても良いので、時々、家族宛の手紙を書く取り組みを行って、家族が来苑時に渡すように企画する
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	行っている。家族は度々の方あり、一ヶ月に1度もない方それぞれです。何人かの方は古くからの友人の訪問が定期的に有ります	
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	家族が遠距離の方は宿泊されています。寝具は苑で準備しています。	"家族、お泊り交流会"を計画したい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	夏の納涼祭、春の花見に家族参加を募っています	今年から秋に家族と職員の座談会を行う予定です
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	拘束の理解はしている。認知力、理解力のないかで安全対策を考え対応の方が1名いますが拘束はしていません	夜間のみ使用し、日中は柵をはずす方向の取り組みをしています
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	1名、玄関に限らず、出口と言う出口から徘徊し、何度もヒヤリハットがあったので、施錠しています	玄関以外の出口は開錠出来る様になった(油断は出来ない)ので玄関も開錠出来る様にしていきたい
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	一人の入居者の徘徊行動が頻繁なので、ひと時も気を緩められないし、緩めていないと思う	玄関には戸の開閉時に予防策としてのベルを設置している
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁・はさみ・針・等は施錠できる収納庫に置いています。必要に応じて必要な方には使用してもらっています	
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	1年に1度火災訓練は消防署に申請して行い、独自で訓練を行ったことが1回です	転倒について今年度予定
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		全職員に徹底していないので今後指導者の下行いたい
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	今まで2年間で行った件数3件、事故の再発防止に努めたい	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		近隣の方へのお願いを行っていききたい
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	行っています	
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		快調対策にヨーグルトを毎日食すようになった方が居ます。
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。		
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。		
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		共有スペースを増やしたい
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。		入居者の身体能力の低下があった時に対応できるように改修は必要になってくる
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。		居室がONEフロアーになっていないので、状況が把握し難いので、安心・安全の暮せる環境づくりを考える
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。		日本庭園的になっているが跳び石が気になるので段差を無くし安全に工夫したい

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない